



CHALLENGING SPIRIT

～ 海洋インフラを支える技術者たち～



＜プロフィール＞

西村尚己 /Naoki Nishimura

株式会社アフロのフォトグラファー(アフロスポーツ所属)。

人間味あふれるアスリートの姿に魅せられ、学生時代にスポーツ写真の世界と出会う。

1994年、大阪大学大学院工学研究科(土木工学専攻)修了後、運輸省(現国土交通省)入省。港湾・空港・鉄道のインフラ整備に携わりながらアマチュアカメラマンとして活動するも、どうしてもプロの世界で挑戦したいという想いが募り、2016年、22年間勤めた同省を退職し、フォトエージェンシーであるアフロに入社。現在、オリンピックや世界選手権をはじめ国内外のスポーツ撮影を中心に活動中。

埋立、浚渫、護岸、橋梁基礎、海底トンネル…。海洋土木工事として行われるプロジェクトは、常に海象と向き合いながら、不測の事態にも臨機応変に対応していくことが求められる。そこは現場を舞台に活動する技術者たちの挑戦の場だ。

自らも数々のインフラ整備に携わってきた写真家・西村尚己氏がファインダー越しに見た技術者たちの「CHALLENGING SPIRIT」を今号から紹介する。

vol. 1

神戸港で進められている大型プロジェクト「大阪湾岸道路西伸部(六甲アイランド北～駒栄)」。関西国際空港から神戸淡路鳴門自動車道に至る延長約80kmの大阪湾岸道路の一部区間を構成し、神戸港を東西に横断する延長14.5kmの自動車専用道路である。

そのシンボルとなるのがポートアイランドと六甲アイランドを結ぶ全長2.7kmの海上長大橋で、完成すれば世界最大級の連続斜張橋(4つの主塔)となる。

この日、現場海域で行われていたのは、

長大橋の橋脚を支える海底地盤の強度を確認するための試験工事だ。起重機船で吊り上げた直径1.5m、長さ70mを超える巨大な試験杭(鋼管杭)を海面下約65mまで打設する。その後、試験杭を用いた載荷試験により必要な地盤強度の確認を行い、そして工事へと進められていく。

本プロジェクトが事業化されたのは2016年、今から8年前だ。時間的にも、空間的にも壮大なスケールのプロジェクトが、技術者たちの力で一歩一歩、着実に進められている。



撮影 / 文：西村尚己／アプロ
(2024年3月11日撮影)

工事名：神戸港臨港道路載荷試験工事
(第1工区)

発注者：国土交通省近畿地方整備局

受注者：五洋・若築・大本特定建設工事
共同企業体

